



保護者連絡用QRコード(登録サイト)

## 「あいさつができない者は、採用しない」

校長 内山 茂



校門付近の桜の蕾がふくらみを増し、開花間近になってきた。今、この桜の木の下で登校する生徒諸君と挨拶を交わし、会話することを楽しみとしている。

ところで、私は、昨年4月の新任式で、「本校生徒のあいさつは素晴らしい。生徒たちが、立ち止まってあいさつをする。何と素晴らしい学校だろう」と言ったことを覚えている。

しかし、最近、元気よくあいさつをする生徒が減ったような気がしていて、残念に思っているところだ。

先月、1年生がインターンシップ（職場体験学習）を行った際、私はお礼を兼ねていくつかの職場を訪問した。その時、ある指導担当者が、「今、あいさつの大切さを話したところですが、あいさつができない者は、仕事はできない。採用はしないとしました」という話をされた。ありがたいことであり、感謝した次第だ。

仕事の上だけでなく、日常生活でもあいさつがいかに大切であるかは、今さら言うまでもない。あいさつのない社会、家族、学校、職場などは考えられない。決して難しいことではない。全ての生徒・職員が、「お早うございます!」、「こんにちは!」等、お互いに気持ちのいいあいさつをしようではないか。そこから生活が変わる。学校が変わる。「明るく、楽しく、活気あふれる学校づくり」は、ここから始まる。

## 平成26年度 学校経営総括

平成26年度も「明るく、楽しく、活気あふれる学校づくり」の学校スローガンのもと、教育活動に取り組んできました。特筆すべきことは、進路面において就職内定率100%、進学合格率100%と本校の誇る高い進路達成率を残すことができたことです。また、部活動においては、長崎がんばらんば国体で弓道、ボクシング競技での入賞や、競技補助員としての活躍が見られました。課題点としては、授業態度や高校生としての自覚不足からの軽率さが問題行動につながるなど、生活面の問題が残りました。

来年度は、創立50周年を迎える記念すべき年になります。今年度の改善策を講じるとともに、本校の建学の精神「真面目な近代産業人の育成」の原点にかえり、佐実生の誇りと自覚を胸に、大きく飛躍することを目指します。

## 自動車工学専攻科 — 第34回卒業証書授与式

3月7日(土)、平成26年度自動車工学専攻科生16名が本校を巣立ちました。来賓、保護者の皆様も参列され、厳粛な中にも心温まる卒業式となりました。前日には、表彰式が行われ、今年度は、ト部 達允君が「日本私立中学高等学校連合会会長賞」、田上 亮君が、「産業教育振興中央会会長賞」を受賞しました。

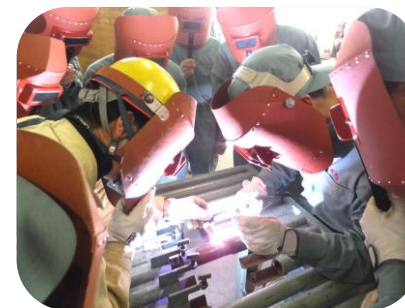
なお、3月22日(日)に、最終目標である二級自動車整備士の国家試験が実施されます。この2年間、専攻科で学んできた知識を存分に発揮し、「全員合格」という吉報が届くことを在校生・職員一同、期待しています。

また、自動車業界は「ハイブリッド自動車」や「燃料電池車」等の新しい動力源を利用した自動車実用化されており、自動停止ブレーキや自動運転等の高度な技術が採用されるようになってきました。このような技術を修得するには、よりいっそうの自己研鑽が求められます。自分自身からチャレンジして、自動車産業や社会から求められるに「人財」となることを願っています。



## 工業科 — 溶接デモンストレーション

3月3(火)・4日(水)の2日間、三菱重工(株)長崎造船所から6名の皆様から、工業科2学年の生徒を対象に、「溶接技術のデモンストレーション」をしていただきました。はじめに、会社の概要や仕事内容などを紹介していただき、4班に分かれて実習をしました。生徒たちは、普段の実習で溶接作業は体験していましたが、終始、プロの技術の高さに目を奪われていました。



## 平成26年度退任者紹介

(敬称略)

数 学	数 学	英 語	全 通	地 歴	英 語	工 実	国 語	保 体	国 語	工 自 動 学 車	事 務
春 田 征 一	中 山 慎 吾	蛭 川 誠 一	磯 部 由 美	田 中 聡	小 林 沙 耶 香	有 森 三 男	森 川 道 子	今 里 忍	藤 原 秀 子	中 野 勝 則	江 利 喜 久 子